

最北の海岸防災林施業モデル

～造成50年を経て更なる機能発揮への取組と検証～

林野庁 森林整備部 計画課 林地台帳係長 尾 関 洋
(元 宗谷森林管理署)
北海道森林管理局 宗谷森林管理署 一般職員 大和屋 孝

1 課題を取り上げた背景

宗谷地域は、三方を海に囲まれ通年して強風にさらされる厳しい環境にあります。海岸線においては、戦後の乱伐や大火等により無立木地になるなど、過去には多くがササ生地となっていました。そのような中、地元からの強い要請を受け、住民の生活環境の改善を目的に海岸防災林造成事業が開始されました。厳しい条件下で試行錯誤を重ね約50年が経ち、メークマ地区をはじめ各地区に海岸防災林が造成されましたが、密植施業により樹冠密度が高く枝の枯れ上がりや下層植生の消失が発生し、公益的機能が低下しています。このような状況から、将来にわたり活力ある森林としてその機能を最大限に発揮・維持していくために、効果的・効率的な森林整備を行い、さらには民有林を含めた地域の海岸防災林施業モデルを形成することを目指し、計画的に取組むこととしました。



宗谷署管内の主な海岸防災林

2 取組の経過

平成26年度にはメークマ地区において学識経験者を招致し検討を重ね、今後の施業方針となる全体計画を策定しました。育成単層林型の現

在林分を100年程度まで健全に長く維持しながら防風効果を発揮させるため、施業方法や伐採時期等細やかなゾーニングを行いました。

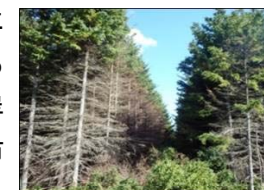
平成27年度より全体計画に基づき本数調整伐を行い、その後の経過観察のためモニタリング調査を実施しています。



メークマ海岸防災林のゾーニング

平成28年度には浜頓別地区においても全体計画を策定しました。

また、民有林における海岸防災林の整備等に資するため、情報交換及び技術交流を実施するとともに、宗谷流域林業活性化協議会内に海岸防災林に関する部会を設置し、振興局・関係市町村と会議や現地検討会を実施しました。



本数調整伐後

3 取組結果と考察

防災林や密植状態の林分での施業には多くの制約があり、効率的な施業方法の確立や、現地残材の処分方法等の検討が必要です。さらに、防災林の機能を発揮しつつ維持していくためには組織として長期的・継続的な取組が必要となります。

今後は、長期的なモニタリング調査を行いながら、PDCAサイクルにより都度全体の検証・検討を繰り返し、計画を改善・実行していきます。

また、民国連携のもと技術交流を行い、将来的には宗谷地域の海岸防災林施業モデルの確立を目指していきます。

